

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県 小山市羽川524-1 電話:0285-20-6211		
自己評価作成日	平成27年 7月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月 5日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.jp/09/
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成27年 8月10日	評価確定(合意)日	平成27年 8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方々が安心して穏やかな生活ができるよう配慮しています。 ・ご家族との連絡を密に図り、信頼関係を築けるよう努めています。 ・併設の事業所として、デイサービスセンター・小規模多機能型施設・居宅支援事業所があり、それぞれの利用者の状態の変化や家族のニーズの変化に柔軟に対応していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年2月の開設で、小規模多機能、デイサービスセンターが同一敷地内にある1ユニットのグループホームです。地域の行事には3事業所一緒に参加し、地域との交流を図っている。玄関前には東屋があり、気候の良い日には外気浴をしたり、玄関前の菜園では農業経験のある利用者などと家庭菜園を楽しんでいる。能力維持のため各人の役割分担を決めることにより、自分の役割であると自覚した利用者が進んで清掃や食後の後片付けなどを手伝っている。協力医による訪問診療や、整骨医による機能維持のためのリハビリなどの支援、またADLの低下により入浴が困難になることに備え、浴槽をストレッチャー対応型に改装を決めるなどは本人、家族の安心に繋がっている。事業所でのバーベキュー行事には交流機会として家族を招待し、利用者や職員との触れ合いを通して家族との信頼関係を深めるようにも努めている。職員の異動も少なく経験豊かな職員の暖かい見守りで、利用者が穏かで心地よく暮らせるよう支援している事業所です。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念においては、朝礼時の唱和を継続し、定例職員会議においても実践できているか確認し、処遇の実践に生かしています。	「運営理念、職員の心得」の唱和を毎朝継続している。ケアレスミスなど発生の場合は、即時対処と共に職員会議の議題に取り上げ、理念、職員の心得に照らして言動を振り返る機会としている。原因究明や再発防止、更に慣れなどによる気の緩みについてなど全職員での話し合いを通し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域との交流を図れる行事には積極的に参加し、周辺住民の方々と事業所職員とが顔なじみの関係になれるよう努めています。	自治会行事の清掃活動には必ず職員が参加し、近所の人と顔なじみになるよう努めている。敷地内のフレンド3事業所合同の秋祭りには毎年多くの地域住民の参加が得られている。グループホーム単独としても地元ボランティアのオカリナ演奏やフラダンスなどの訪問が利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例の秋祭り際には、介護相談コーナーを設け、地域住民の方々が気軽に相談にいらしていただけることを、合わせて情報としてお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積年の課題となっていますが、出席くださる委員の確保に苦労しています。顔なじみの住民の方々を増やすとともに、民生委員などの自治会役員等の出席につなげ、本来の会議の意義実現に向けて努めていきます。	包括支援センター職員以外の常任委員が決定せず、不定期開催(概ね3ヶ月毎)となっている。会議では利用状況や事故報告などを行っており、時には家族や自治会の班長の出席もあるが、意見、提案などは少ない。グループホーム、小規模多機能両事業所の管理者を中心に常任委員の確保に努めている。	定期開催に期待します。更に、地域包括支援センター主催の地域ケア会議の開催も予定されており、地域資源としての事業所の位置づけを確実にするためにも、行政を含めあらゆるチャンネルの協力を得て、更なる常任委員の選定にも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の更新の時期となり、小山市の担当者と直接運営状況について話をできる機会がありました。改めて日頃の報告・相談の内容について確認し、密な連携に努めています。	認定変更や事故報告などの際には市の窓口に出かけ、担当者や情報交換している。困難事例などの対応での適切なアドバイスなどの必要性を痛感しており、地域包括や行政窓口へ早めの報告や相談を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護服の着用について、小山市の实地指導においても指摘されましたが、切迫性・非代替性・一時性の要件について職員会議で共有し、日々の状況を慎重に観察することの重要性を再確認しました。	マニュアルや研修、更に会議などを通して身体拘束について職員全員が正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。家族や医師と相談のうえ緊急避難的なつなぎ着用に至ってしまった事例を踏まえ、日々しっかり様子を把握して早期発見、早期対応の重要性を共有してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアで取り上げられる虐待の話題には、他人事と捉えることなく、自らの日頃の業務においても援助内容が適切か否か、職員間で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小山市の状況について、認知症施策総合推進会議の情報を中心に共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時には十分な時間を設け、グループホームという事業所のサービス内容について、できること・できないことを説明し、納得いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時には、職員との懇親を深めることに努め、日頃の面会時などに意見や要望を気軽に伝えていただけるような距離感を作りたいと考えています。	家族意見の反映の機会として運営推進会議への参加を呼び掛けているが、出席が得られている会議は少ない。事業所でのバーベキューなどの行事には家族を招待し、時間をとって職員と馴染みの関係を作り、気軽に意見や要望が聴けるよう努めている。	家族訪問時の会話を大切にし、聴く姿勢で家族の言い難いこともしっかり受け止め、運営への意見反映に繋がる事を期待します。また機会を見つけて個別記録や、支援経過記録を家族に積極的に開示し、職員の取り組み内容への理解を深める取り組みにも期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は前向きに受け止め実践しています。機会の確保も職員会議をはじめ、日常的に利用者処遇などについて話をするように努めています。	月一度の職員会議には全職員が出席し、事前に職員より提案のあった議題も取り上げ、司会も交代で務めている。ケア会議も兼ねており数名分を取り上げ対応や援助方法を話し合っている。管理者は常に現場に入り、日常的に解決できることは即断即決して対応している。行事に関する企画・実行は職員が主体的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期(6カ月)毎には人事考課を実施し、個人の勤務状況とモチベーションを把握できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会社顧問医による内部研修開催の他に、外部研修についても積極的に機会を作り、個人の成長を期待しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現場レベルの主任会議において、社内の他事業所を見学して回って情報交換しています。自らの事業所の良い点・改善したら良い点を把握し、処遇につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設のデイサービスや小規模多機能施設からの利用の変更の方が多く、その利用時の状況を実際によく観察しながら、また入居前に何度か直接本人と会う機会を作り、顔なじみになり利用が開始できるようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項と同様に、職員間の申し送りを密にすることや、事前の面談を丁寧に行うことにより、不安なことを含めてニーズの把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談での話し合いの内容などから、現状の要望をよく見極め、グループホームでの支援が適当なのか判断し、必要に応じて併設の居宅支援事業所への紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の面談時の家族との話から、本人の生活歴をよく把握し、現在のADL状況で負担のない範囲で、日常生活のできる部分の自立を一部介助により促しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の定期開催により、職員との関係を築き、日頃の面会に気軽に来所いただき、本人の現状を報告し、家族の方のアドバイスや直接の支援を依頼しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食やお花見などの外出には、自宅周辺のなじみの場所を選定し、本人が昔の回想ができるような機会を作っています。	月一度以上の家族訪問はある。友人知人などの訪問は極まれにあり、お互いに再会を楽しむなど会話は成り立っており、再来訪をお願いするなど支援している。外出先などの希望は日頃の会話の中から聴きだし、出来るだけ希望に沿えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席の配置には、人間関係の相性などに十分配慮しています。トラブルにならないよう、職員はよく見守り支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時のその後のサービス紹介や、退去後の支援はそのケースに応じて丁寧に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の要望に可能な範囲で対応しています。具体的には、ADL維持の希望があるケースでは、外部のリハビリ施術サービスの紹介へつなぎ、実際に数名の方々がサービスを受けています。	全員が口頭での意思表示は可能であり、時間がかかる場合はあるが、凡その意向や要望の把握は出来ている。内容によっては、生活歴を参考にしたり家族に確認するなどしている。家族の要望で整骨医による機能リハビリの訪問サービスを受けるなどの事例もあり本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面談の際に、生活歴をはじめとしたこれまでの暮らしの把握に努め、入居後の支援に生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の援助や本人の生活状況をよく把握し、状態の変化に留意しています。必要に応じて職員会議の議題として、対応や援助方法を話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議において、利用者の方々の援助内容や方向性を話し合い共有しています。必要に応じて協力医や社内薬剤師の助言も参考にしています。	個別記録や支援経過を基本にし、ケア会議、サービス担当者会議での話し合いや協力医の意見も参考に介護計画を作成している。モニタリング結果を踏まえ、実現可能な短期目標を設定し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をよく見守り観察しながら、具体的に記録するよう留意しています。内容については、朝夕の申し送り時に報告し、情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスや小規模多機能施設とも協力しての合同のレクリエーションの提供や、服薬支援に関しては社内薬剤師の援助など、自前の環境を生かしたサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事には、事業所近隣の場所を利用したり、また近隣の幼稚園児の事業所訪問などを企画し、本人の生活の楽しみに配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時によく相談し、ホームの協力医の支援か今までのかかりつけ医への受診を継続していくか選択していただきます。既往歴によってどちらが安心して健康管理できるか、判断が難しい面もあり、十分話し合ったうえ選択いただいています。	月2回の訪問診療や必要に応じて往診も可能なことから、全利用者が協力医を主治医としている。受診結果は薬の変更や体調変化の都度、家族に電話連絡や訪問時に伝え共有している。3ヶ月毎に血液検査を実施するなどの体調管理は本人家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師はいない状況で、必要に応じて併設の事業所の看護師の援助を依頼しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合には、入院中より病院に面会にでかけて、家族や関係者との情報交換につとめ、退院後のホームでの生活が安全に継続できるよう配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では、重度化や終末期での対応は、協力医との連携を図りながらの病院への転院という内容です。今後の可能性も含めて、職員は外部研修を受講しホームでの看取りについて学習する機会を作っています。	契約時に事業所で出来ること、出来ないことを伝え理解を得ている。重度化の兆しが見られた場合は主治医の判断に従い家族と相談の結果、入院や他施設の紹介などの対応をしている。不測の事態に備え、看取り知識について全職員が受講できるよう研修機会を設け逐次受講している。	高齢者の場合は夜間に急変や老衰などによる不測の事態が想定されます。夜勤者が迅速適切な対応ができるよう知識の習得と協力が得られる看護ステーションとの連携などに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や消防署の訓練を継続的に開催し、緊急時の実践的な対応について演習を含めて身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練は、例年と変わりなく併設の施設との合同訓練を実施しましたが、単独での夜間を想定した訓練は実施できませんでした。地域の協力体制の点についても継続して検討しています。	敷地内の3事業所合同の総合訓練は年2回(3月, 9月)に消防署立ち合いで実施している。通報装置について隣接事業所との連動、近隣住民の参加検討、夜間想定訓練の実施などの指摘やアドバイスが得られているがいずれも実施に至っていない。グループホームは2階建て(2階6部屋, 1階3部屋)で2階からの避難手段として滑り台が設置されているが、居室から滑り台までの誘導手段や下での受け手など具体的な対応方法が明確にされていない。	グループホーム単独での夜間想定避難誘導訓練(2階からの誘導を重点に)の早期実施。隣接小規模多機能との連携(通報装置の連動や滑り台の受け手としての役割)、近隣住民への協力と訓練への参加要請(協力内容を明文化して依頼)。併せて誘導時の煙対応など消防署の指導、アドバイスを得ながら、各内容の実施時期を明確にし、職員が臨機応変に対応できるよう早期の取り組みと繰り返しの訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活のペースを尊重し、職員は適度な距離感で見守るよう心掛けています。関係性についても言葉遣いには十分気を付けるよう、毎朝のミーティングにおいて確認し合っています。	呼びかけは姓にさん付けを基本としている。声かけ時には馴れ馴れしくならないよう利用者毎に最適と思われる距離感を持って接するよう努めている。テーブルの座席については周囲との関係性について慎重に見極め、利用者間のトラブルにならないよう早めの席替えなどの配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食では、利用者の食べたい物を選んでいただき、場所などもできるだけ選択できるように配慮しています。その他の場面においても自然に思いを話していただけるよう、コミュニケーションに留意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを最優先に、臨機応変な対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が洋服をできるだけ自分で選んでいただけるよう配慮しています。場合によっては季節感がずれたりすることもあり、負担にならないように一部介助や声掛けするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食前には、口腔体操を行うのが日課として食事の意識を高めています。食器の後片付けをされる利用者の方も楽しく手伝われています。	半調理済み食材を専門業者より仕入れ、カットや温め、盛り付け、ご飯やみそ汁は職員が作っている。事業所菜園で採れたナスやゴーヤで1品増し、食卓の話題になることもある。職員は見守りながら同じ物を食べている。食後の片づけや、テーブル拭きなど出来る人は進んで手伝っている。食べたい物が選べる月1度の外食は楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックしながら必要量を確保しています。また、協力医による3か月に1回の血液検査や、毎月の体重測定により栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の方が定時の口腔ケアを励行されています。必要に応じて一部介助させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、ひとりひとりの排泄のパターンを把握し、トイレでの自然排泄ができるよう配慮しています。夜間においても睡眠の妨げにならない程度で、パット類の使用や交換を支援しています。	ほぼ全員が自立排泄可能で昼間のおむつ使用者はいない。排泄パターンは把握しているが、立ち上がりや食後の歯磨き、入浴など、何らかの行動の流れのなかで、さり気なく声掛けして誘導している。夜間のおむつ使用者3名、ベッドからの起き上がり時のふらつきによる転倒防止のため、夜間のみ人感センサーを設置している。座位は全員維持出来ているが、維持継続のため希望により整骨医による機能リハビリの訪問サービスを受ける利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医との連携を図りながら、本人・家族ともよく相談のうえ、内服薬の調整なども支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴をしていただいています。ホーム内の浴室で、もともとの生活歴に配慮した時間帯での入浴に内容を変更しました。	入浴の時間帯は午後1時～3時頃までとし、週3回を原則にしているが、体調や気分によっては柔軟に対応している。入浴剤の色を好む人が多く好みに応じて使い分けている。入浴を嫌がる場合はタイミングをずらしたり別の職員が対応している。ADLの低下に対応して、浴槽をストレッチャー対応型に改装を予定(9月頃)している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の昼寝なども本人のペースにまかせていますが、職員は日常のペースとの変化をよく観察し見守りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内薬剤師との連携を図り、症状の変化に留意しながら支援しています。職員も副作用や効用について情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的な新聞購読や畑作業など、生活歴や希望に柔軟に配慮しながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外食や季節の花見を目的としたドライブなどに出かけています。季節感を味わい、生活を豊かなものにできるよう今後も支援していきます。	周辺は車の通行が多く日常的な散歩などは難しいが天候を見ながら、敷地内の家庭菜園の生育状態を確認したり、ご近所の花壇を見に行くなど外気浴の機会を設けている。月1度のドライブでは季節感を味わえる場所を選定して、ひまわり園などに全員で出かけている。家族の来所時には美容院や外食、時には一時帰宅する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の外出行事など実施し、可能な限りお金を使うという生活行為を継続しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて積極的に支援しています。遠方の家族の方からの手紙のやりとりは増えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃による環境整備には、何人かの入居者の方にもお手伝いいただいています。リビングの窓に、ゴーヤのグリーンカーテンの設置を、この夏は試みてみました。	1階のリビングは全員が1日の大半を過ごす場所になっている。モップかけなどの清掃を自分の役割として積極的に手伝う人も数人いる。テーブル配置は車椅子使用者の動線に配慮して設置しており、状況に応じて利用しやすいように配置換えしている。季節感を出すため利用者と一緒に作った季節の花の切り絵などを飾っている。トイレや廊下も清掃が行き届き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置の配慮と、職員の一部援助により、お互いがストレスなく過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置についても人間的な相性やADLや認知症の状態を家族の方とも相談のうえ決定しています。居室内の私物については、本人が落ち着いて過ごせるよう馴染みの物品を持参いただいています。	各部屋には備え付けの整理箆箆が用意されており、箆箆の上にはご主人の遺影や位牌、孫の写真などを飾ったり、好みの小物を置くなど落ち着いて過ごせるようにしている。職員は毎朝の清掃や季節に応じてのベッドの位置調整やエアコンの吹き出し口の調整など本人が快適に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	約半数の利用者の居室には、人感センサーを設置し、転倒事故などを未然に防ぐ環境整備に努めています。		